

ちばしや通信

Vol.18



画 くさびら八郎

【トピック】

- | | |
|---------------------|---------------|
| ♪ 「寄り添うケアのはじまり」 | ♪ つれづれなるままに |
| ♪ 「心地よい関係性のバランス」 | ♪ 各種イベント案内 |
| ♪ 私の子育て奮闘記 | ♪ “ときがね”なひととき |
| ♪ 「はい、よりそいホットラインです」 | ♪ 法人からのお知らせ |

寄り添うケアのはじまり

『もつと話をしたかった・・・』

「えっ、マジですか??なん
で??」

突然の連絡で何がなんだかわ
かりませんでした。

谷口マツコさん(当時83歳)が
農薬を飲まれ、救急車で運ばれ
たとの家族からの連絡でした。

谷口さんは、僕の勤めていた
デイサービスを利用されていま
した。心も身体も声も非常に大
きな人です。彼女の回りではい
つも笑い声が絶えません。産ま
れた時からずっとその場所に暮
し続け、その地で結婚し、子供
も育ててきました。今ではすっ
かり住宅街になってしまったこ
の地域は、昔、塩田があつて沢
山の人が暮らし朝から晩まで仕
事をしていたそうです。そして、
今は全く跡形もありませんが、
共同浴場も2か所ありました。

1日の仕事を終えると沢山の
人がその浴場に集まり賑やかな声

が響いてました。ある時、近く
の海岸で地域の子供たちが居な
くなり、1か月間ずっと男ども
は子供たちを探し回り、女性は
搜索をする男どもの為に海岸端
で煮炊きをして、地域住民みん
なで探し回ったこともありまし
た。彼女が全部教えてくれまし
た。その地に暮し続けてきたか
らこそ知っているし、伝えられ
ることです。

病院に走つていき、病室の扉
を開け僕の目に映った谷口さん
の姿は眼をそむけたくなるよう
な姿でした。飲んだ農薬を救命
措置で吐き出されたのでしょ
う。その農薬の色なのかよくわ
かりませんが、体中に黒い斑点
のようなものが広がっていまし
た。そして口には酸素の管が入
り、点滴も繋がれ、まさにチュ
ーブにグルグル巻きにされた状態
です。身体をさすりながら、「谷

口さん、谷口さん」と何度声を
かけても、全く顔を聞くことは
ありません。もちろん、あのみ
んなを包み込むような笑顔も無
ければ、大きな笑い声も発して
くれません。

そばにおられたご家族にお聞
きしたところ、玄関に置いてい
た除草剤を自分で飲みそのまま
倒れていたとのことでした。

「なんで、そんなもの飲んで
しまったんですか?谷口さんは
飲んではいけない物はしっかり
解っていたはず。なにか、あっ
たんですか?何ですか?」

「いい、僕はご家族に詰め寄って
しまいました。しかし、ご家族
は「私達もなんでか解らん」と
それだけでした。

翌日、デイサービスでは当然
その話題になりました。谷口さ
んの近所の方のお話だと3年程
前に帰ってこられ同居していた
お嫁さんとの関係がうまくいっ
ていなかったとのこと。食
事もいつも別々、おかずも谷口
さんにはほとんど無く、梅干

し1個だけという時もあったそ
うです。しかし、これも近所の
方の話ですので、今となっては
事実かどうか、御本人しか解り
ません。でも、今となっては谷
口さんは何も答えられない状態
なのです。あんなにいつも笑顔
で周囲を包んでくれた谷口さん
が自宅でどんな暮らしをしてい
たのか?どのような悩みを抱え
ていたのか?全く僕は知りませ
んでした。知ろうとしていな
かったと思います。なぜなら、
僕は谷口さんのデイサービスで
お会いするその笑顔の姿だけ
で、彼女の生活全てが安心して
暮らしていると何も心配事はな
いのだろうと勝手に思い込んで
いたのです。

それから、1週間ほど危険な
状態が続き、そのまま病院で息
を引き取られました。

これを読んでくださった
皆さんには、僕と谷口さんのよ
うなことはこれまでなかったで
しょうか?私達が関わっている
高齢者の方々は常にリスクを抱

えておられます。僕は、谷口さんだけでなくデイサービスの職員だった頃、もっとお話をしておけば良かったと後悔をしています。御利用者が数名おられます。

2月のある寒い朝、いつも通り、毎週金曜日御利用の木田さん(仮名)という女性をお迎えに行きました。お迎えに行くといつも準備万端で、送迎車を玄関に座って待つてくださっている方でした。しかし、その日に限って、玄関のカギはかかっていて庭に面した窓のカーテンも閉まっていました。「おかしいなあ?」と思いつつもベルを慣らし、また勝手口や窓から木田さんの名前を呼び続けました。木田さんは小柄な女性で、社交性もあり、時にはタクシーを呼んで買い物に独りで行かれる方でした。「何か急用でもあつて出かけたのかなあ?」と思いつ僕は一旦引き揚げました。でも、事業所に戻ってからもう気がなり、1時間後また木田さんのお家に行きました。玄関も鍵が

かかり、カーテンもしまつて全く状況は変わってません。もう一度、家の周りを回るとトイレの小さな窓が空いていることに気づいたのでよじ登つて中を覗いてみました。すると、トイレのドアのところ木田さんが倒れていました。いくら叫んでも、反応がありません。役場の方や救急隊の方を呼び、中に入り込みましたが、木田さんは既に亡くなつておられました。救急隊の方のお話だと深夜にトイレに行かれ、軽い脳梗塞を起こされたそのまま倒れ、頭も打たれたのではないかと。死後6時間以上経過しているとのことでした。木田さんとの突然のお別れでした。

僕はこの介護という仕事について、これまで「ちょっと待つててくださいね」という言葉を使いその場を立ち去つて、長い時間お待たせしてしまつたり、もしかするとそのまますつかり忘れてしまったこともあつたかも知れません。また、「今度、

ゆつくりお話し聞かせてください」「今度、遊びに行きますから・・」と言つてそのままにしてしまったことが今振り返ると何度もあつたと思います。

寂しさや孤独感、疎外感を感じた時、誰かにそばに居て欲しい、話を聴いて欲しいと誰もが思います。また、嬉しかったことがあつた時もこの喜びを誰かに伝えたい、共感して欲しいと思う時もあります。目の前の高齢者の方々のそのサインを僕はどれだけ見逃してきただろう。もしかすると、忙しさにかまけて目を背けたり、耳をふさいでしまったこともあつたと思います。

「もつと話をしたかった」といくら思つてもその方がお亡くなりになつてしまつてからはもう遅いのです。

黒岩尚文(くろいわなおふみ)

高校卒業時、お金が全く無くて進路指導の先生から「消防士がいい」と言われ喜んで受験。しかし見事不合格。気を取り直し当時最も学費の安い福岡大学商学部を受験。まぐれで合格。お好み焼きを4年間焼き続け卒業。卒業後、東京の不動産会社に入社。2ヶ月で鹿児島弁しか使えないことを見抜かれ福岡支店に流される。1年後、フリーの不動産屋となり東京へ戻る。多くの方々にご飯を食べさせて貰いなんとか生きていたがある朝、突然、顔面神経麻痺になり帰郷。リハビリの甲斐あつてか、無かつたか1年程かかつて今の顔。平成7年4月より福祉の仕事につく。翌年5月より宅老所活動を始める。平成19年6月加治木町で共生ホームよかあんべという小さな小さな事業所を開設。細々とやっています。平成22年5月よりトカラ列島宝島、北海道幌加内町にも関わる。



福祉絵本「おじいちゃん人気者」
(1冊：300円)

心地よい関係性のバランス

第6回 何かに過剰になったなら

「こんなはずじゃなかったのに…」

この連載は書いていると時どき怖くなることがある。よくわからないことを書いて整理するのが私のやり方なのだが、文字になると、ぼんやりしていたものがはつきりしすぎてしまうことがある。書きながら、自分はそのなことを考えていたのかと、驚いたりする。もやもやしているのはつらいのだが、はつきりさせすぎるとこれもまたつらくなる。

最初はそういうつもりじゃなかったのに、あるいは最初はうまくいっていたはずなのに、気づいたら何かがおかしくなってしまう。この連載でも、そんな話をずいぶんたくさん書いてきた。一人で障害児の子育てを抱え込んで苦しくなってしまうお母さんを助けたくて、託児の

「何かが過剰になると…」

何かが過剰になると、何かが質的に変化してしまう。愛情が過剰になって溺愛になると、信頼が支配に変わってしまうかのように、私たちの仕事も何かが過剰になった瞬間にすぐに違うものに変わってしまうのかもしれない。だから、「見えた！」と思ってがんばると、すぐに違うものになってしまう。つかめたと思つた瞬間に、するりと手からこぼれ落ち、すぐに見失ってしまうのだ。だからいつも、いったい何が正しいのかさっぱりわからない。それが福祉のおもしろさなのかもしれないが、一番難しいところのように思ったりもする。

ある同業者が疲れきった顔をして、「ほとんど休みなしに働いています、利用者の要求はどんどん増えるばかりです」と話していた。「どこまでがんばれば許してもらえるのでしょうか」。こんな気持ちで、よいサー

ビスが届くはずもない。しかし、彼女も少し前までは利用者のためにと目を輝かせて働いていた。

「過剰になる何かの正体」

必要な人に必要なだけのサービスを提供したいと思う。しかし、必要なだけの適正なサービス量なんてものが果たして存在するのだろうか。自分で寝返りができない人は、夜中の2時だろうと3時だろうと、必要なら気兼ねなくサービスを使うべきだと思う。では、夜中に寂しくなったら2時だろうと3時だろうと気軽に話し相手をしてくれるというサービスならどうだろう。本当に必要な人もいると思うのだが、我慢したほうがいい人は誰で、我慢せずサービスを利用したほうがいい人は誰なのか、これを決めるのは誰なのか。明確な基準がつけれるとはとても思えない。つらいと思いがんらでも相手のことを思つてがん

ばって関わるのが正しい対応なのか、それともつらいと思っただけでよいサービスは提供できないのだからやめたほうがいいのか。それだって、唯一の結論はない。わかることは、何かが無刺刺になると、必ずどこかにひずみが出てきて、何かが変わってしまうということだ。

うまく言えないけれど、何かが無刺刺になってきたら、立ち止まるサインなのかもしれない。そして無刺刺になった何かが少し薄くなるのを待って、再びスタートする。これがバランスを保ちながら仕事をするためのコツのように思う。それにしても、無刺刺になる何かの正体はいったい何なのだろう。説明できるような気もするし、できないような気もする。しかし、今回はあえて謎のままにしておこうと思う。無刺刺に見えすぎると、また見失ってしまうので。

※この原稿は、Junto's (フントス) CLC発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

大友愛美 (おともよしみ)

北海道生まれ北海道育ち、牛乳の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニケーションワーカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場(学校や研修)での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ぶだけではなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれません…。と感じている今日この頃です。

『びっころ流

ともにも暮らすためのレッスン』

〈1〉600円+税 絶賛販売中

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



私の子育て奮闘記

「関わりと気づき」

次男の療育。次男は、ABAセラピーの時間をとればとるほど、伸びていった。いろんな音をまねするようになり、食べるく、やだく、ちょうだい等という言葉が、たまに聞かれるようになった。

そもそも、模倣(マネ)をする力が弱かった次男は、その力がなかったために、きつと周りの認識や物事をすすめていくときに、本当にどうしたらよいかわからなかったのではないかと思う。一つひとつ、毎日のABAのセラピーを積み重ねることで、色々な力がついていくのを実感した。

しかし、そんな生活も1か月、2か月と長くなってくると、実感をしていても、実際に成果が出ているのか、出していないのか、まったく見えなくなることもあった。発達障害児は一人ひとり違うため、成果が見える形もそれぞれ。長男は学習面で、100点をとった。〇〇できた!と成果が見えやすいが、次男は、そういう意味では、なかなかわかりやすい成果が見えづらかった。

それが、だいぶ身につけてきたと実

感できたのが、保育園の運動会などの行事を通じてだった。他の子と同じような速さでできない場面があっても、ゆっくりとだけ、自分の力で進んだり、おそらく難しいだろうと思っただけのお遊戯で、前のおともだちについて行って、体型移動をしていたり。何より、観客が多く、緊張する場面だということも認識しながら、1日すべて参加できたということが本人にとって、すごいことだと思った。

当日の本人の成長を見て、自分が無意識に長男と次男を比べていたことを実感した。一人一人の縦軸を見ることが大切とは、頭ではわかって理解しているつもりだったのに、でも実際に自分の目の前にいる子どもに対しては、ここまで伸びてほしいという、期待もあって、もつともつと、思っていたのだ。

一つひとつの出来事が、私にいろんなことを教えてくれる。そのたびに、今子供と関われる時間を持つということが、とても幸せで貴重な時間なんだと思った。生活を考えると、そう遠くない未来にまたいつかは仕事を中心にしなければならぬ時期が来るかもしれない。今、まわりの理解と協力によつて、この時間が取れることに、感謝!

(おとめ)

起業・就労・支援の間で…

はじめまして！筒井啓介です！

福祉業界ではまだまだ若い！
と思っていました。気づけば

既にアラフォー。にも関わらず、
独身生活を絶賛謳歌中の男子で
す。連載企画なんて柄にでもな
いのですが、せっかく機会を頂
いたので、その時々で思ってい
ることを自分らしく素直に書い
ていこうと思っています。

生まれも育ちも神奈川県です
が、大学2年生になったばかり
の春に、突如として、現在の職
場でもあり居住地でもある千葉
県木更津市に移住することにな
りました。きっかけは大学の先
生の紹介で木更津のまちづくり
に取り組むという流れになり…
詳しいことは次回以降に改めて
書こうとは思いますが、その活
動の一環で福祉分野にも関わる
ことがあり、現在はまちづくり
活動には区切りをつけ、障がい

者の働く場づくりを中心に活動
をしています。

具体的には、2006年に
特定非営利活動法人コミュニ
ティワークスを立ち上げ、「地
域作業所 hana」というい
わゆる福祉作業所を開設しまし
た。きっかけはまちづくり活動
の中で一人の障がいのある方と
出会ったことで、地域内での障
がいのある方が働く環境を見た
り知ったりしていくうちに、こ
れまでの経験を活かして、何か
自分にもできることがあるので
はないかと考え、「地域作業所
hana」の開設に至りました。
「地域作業所 hana」では雑
貨製造や製菓、縫製作業などの
仕事に障害のある方が取り組ん
でいますが、この詳しいことも
別の機会に書きたいと思ってい
ます。

現在全国には同じような福

祉作業所（就労継続支援B型
事業所）が9000か所以上
あるのですが、そこで働く障
がい者の平均賃金（工賃）は、
15000円/月です。ほぼ
フルタイムで働いてる方もたく
さんいるにも関わらずです。障
がいがあるから安い賃金で良い
のかという疑問が私にはずっと
あり（もしも自分がその立場
だったらきつと我慢ならないと
思います）、そこに対する回答
を自らが現場で生み出したいと
いう想いを今でも強く持ちなが
ら、職員と一緒に日々試行錯誤
をしています。

そんな試行錯誤の中、
2015年3月に新たな活
動拠点として「Natural
Café+Shophanahaco
（ハナハコ）」を開設しました。
見た目はお店ですが、ここもま
た障がい者が働く場（就労継続
支援B型と生活介護の多機能
型事業所）として作りました。
hanahacoは、木更津
市矢那にあるカフェとショップ

の複合店舗です。カフェでは自
家栽培や地場の野菜、フェアト
レード食材を使ったこだわりの
メニュー、ショップには全国の
障がい者支援施設で作られてい
る商品からセレクトしたものを
はじめ、商品1つ1つにストー
リーのある雑貨やアパレル商品
が並んでいます。そしてそのい
たるところで障がいのある方が
仕事に従事してくれています。
今回は初回ということで、今
取り組んでいることの概要を書
いてみました。次回以降はそれ
ぞれのことを少しずつ掘り下げ
て行けたらと思っています。



つれづれなるままに

例年、年度末から新年度と切り替わるこの時期は気忙しい。これは会社が変わっても、このことは変わらないものらしい。暦年は1月から始まり年末から年始へと、誰しも多かれ、少なかれ年の始めに当たり、前年の反省を踏まえて、今年は自分としてはこの様な年にしたいと、抱負を胸に秘め新年を迎えることが多いのではないだろうか。

いくら社会がデジタル化しても、気持ちを新たにチャレンジしようとする部分だけはアナログなのではないかと、スーパーアナログの自分としては思い込んでいる。社会の動きは会計年度である4月から翌年3月までと、官公庁や会社等は、団体・法人として新たな動きを始める時期でもある。

人が動き、新たな会計年度が始まる。そういう意味では、長い間、組織の一員と生きてきたものとして、この、年度切替え

が自分自身のスイッチが習慣として変わる時期でもある。4月1日には、沢山の社会人が誕生し、希望と期待、そして不安の中にいるのではないかと思う。約半世紀前に社会人となったものとしては、その時の自分がどんな心境であったのかほとんど覚えていない。振り返れば、仕事が上手くいったという記憶よりも、失敗した、もつとこうすれば良かったかも知れないと思うことのほうが多かったように感じている。本会も4月には3人の新人をお迎えし、全職員が心新たに、新年度のスタートを切ったばかりである。新人職員の方々、特に新卒のお二人には、慣れない社会、組織の中で毎日が大変な連続で、戸惑いの中にいるのではないかと思う。幸い、本会の職員は皆、心温かく、優しい人たちばかりなので、「心配しないで！大丈夫、一歩一歩進めばいいよ」という気持ちで先輩、同僚に一つひとつ教えてもらいながら、分からない

ことは自己判断せず、遠慮しないでしっかりと教えてもらいたいからゆっくりと進んで頂きたいと思う。本会も社会の制度、子育て支援や高齢者介護、障がい者支援等に限らず、変革の時にきめ細かく、速やかに対応出来るよう、国や県の動きを注視し、特に地域に密着する事業については、地元、東金市のご支援とお力添えを頂きながら、本会の持っている特性を十分活かしつつ、既存の事業の一層の足固めと、新しい事業について「身の丈」をわきまえつつも、しっかりとチャレンジして行きたいと考えている。そのためには、各事業所はそれぞれのリーダーを中心として、職員相互の関係、チームワークを大切に、各事業所間の関係性も、情報の共有と、「お互い様」という気持ちで、日々精進をお願いしたい。

それから、最も大切なことは、地域の人達のご支援と、ご助力を頂けること、それには、職員一人ひとりが、地域の方々と一

緒に何が出来るか、ということ
を、常に念頭において公私とも
過ごすことではないか、全ての
職員が同じ思いで進んで行き
たいと念じております。

(総合施設長 齊藤 操)

Natural Café+Shop hanahaco



営業日：11時～16時（定休日：火曜）

木更津市矢那 1879-1

電話：0438-38-4368 メール：info@npo-cw.net

Facebook：https://www.facebook.com/hanahaco.k/

きもの地サロン	ヨガサロン	穂垂るの会
<p>着なくなった着物をほどこ、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。</p> <p>開催日：5月9日（月） 5月23日（月）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 鶴嶺の家（50 - 0285）</p>	<p>健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？</p> <p>旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。</p> <p>開催日：5月11日（水） 5月25日（水）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 ありさ（50 - 0362）</p>	<p>介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。</p> <p>開催日時：5月12日（木） 13:30～15:30</p> <p>会場：ふれあいセンター 経費：200円（お茶代） 主催・連絡先：穂垂るの会・井上 (090-7171-1701)</p>

ときがね・街かど福祉塾

「ときがね・街かど福祉塾」は、東金・山武地域の市民や福祉・介護・子育て・まちづくり関係など、人に関わる活動や仕事をしている人たちの学習の場、思いの共有の場、新たな縁（えにし）の場づくりとして実施しています。

東日本大震災以降中断していたものを、昨年10月より、月1回ペースで実施しています。ぜひ、ご参加ください。

対象：興味のある方ならどなたでも
定員：30名

（問合せ先：ちば地域生活支援舎
Tel:0475-53-3630）



《第8回》

「地域での子育て支援を考える（仮題）」
日時：平成28年4月26日（火）
18:30～20:30
会場：東金市中央公民館・研修室
講師：甲斐久美子

《第9回》

「子どもを取り巻く問題と支援について
～児童養護を中心に～（仮題）」
日時：平成28年5月24日（火）
18:30～20:30
会場：東金市中央公民館・研修室
講師：社会福祉法人野の花の家
花崎みさを（理事長・統括施設長）

《第10回》

「よりそいホットラインから見えてきた
生活困窮者とは…支援とは…（仮称）」
日時：平成28年6月14日（火）
18:30～20:30
会場：東金市中央公民館・研修室
講師：桐谷陽子・石井陽子
（よりそいホットライン・
コーディネーター）

ときがね な ひととき

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

4月より鴉嶺の家は、東金市指定の小規模多機能型居宅介護事業所として運営していくことになりました。高齢者で介護や予防支援が必要な方は、今までどおり通いを利用できる他、訪問やお泊り、相談支援などのサービスを利用することが出来ます。

また、これまでは、制度と自主事業を組み合わせて、24時間365日の支援をおこなってきましたが、これからは制度の中で全て対応できることになり

ます。

障がいの方も、これまでと同様、通い利用が出来る他、365日利用することができるようになりました。

これからも皆さんのニーズにお応えできるよう努めていきたいと思えます。

さて、4月と言えば桜、花見の季節ですね。鴉嶺の家でも八鶴湖に桜を見に出掛けてきました。天気も良くお出かけ日和、満開の桜はまさに圧巻でした。桜の次はやはり海ですよね。夏になったら皆で海に行きたいと思えます。

鴉嶺の家（児童）

寒さも和らぎ、心弾む春がやってきました。ご卒業・ご入学・ご進級おめでとうございませう。今年度も宜しくお願い致します。大人も心新たに気持ちを引き締めていこうと思えます。子ども達は少しずつ確実に成長しています。言葉が増えたり、出来る事が増えたり、グリーンと

背が伸びたり。特に足がスーッと長くて、さすが今の子という感じですよ。

鴉嶺の家で最近ふと思うことは、「あれ？今日はご飯とお味噌汁が温かい」「あれ？ちゃんと落ち着いて食べられる」という日が出てきたこと。そう！食事中歩こうとしたり、横になろうとしたり、ぐずったりする事が減り、座っていられる時間が増えてきたようです。それも子ども達皆が1年、2年と大きくなるにつれて、食欲が出てきている表れだと思えます。

そして、最初は3〜6歳と小さかった子ども達が、自分より年下の子を見て可愛いと感じ、優しく接している姿もよく見かけるようになりました。あんなに泣いたり、ギャーギャー自己主張ばかりしていた子が…と感動ものですよ。

お互いが影響し合って起きている、集団生活ならではの成長を感じる事が出来るのがこの仕事の醍醐味なんですよ。

子ども支援センターぽけっと

ぽけっとでは 只今春休み真っ最中…。

八鶴湖やときがね湖を散歩しながら桜の開花を楽しみにしたり近くの公園ではペンペン草で遊んだり四つ葉のクローバーを必死に探したり、突然出てきたトカゲにびっくりしたり春を思いつきり体で感じていきます。

そんな穏やかな春休みが終わるといよいよ新学期。入学や進級、1年で一番環境が変わる季節です。ちば舎にも新人スタッフを迎え、私達でも緊張する4月、変化を苦手とするお子さんにとって「新しい学校」「先生が違う」「新しいお友達」「いつもの部屋じゃない」…もう大事件だと思えます。

「困った！なんとかかして〜」という気持ちをお子さん達はいろいろな形で表現してくれませんが、納得して気持ちが収まるまで個人差はあるものの時間がか

かります。

そんな中、ぽけつとで出来る事はなんだろうと保護者の方に尋ねると「穏やかに過ごして欲しい」という声が多く聞かれました。今スタッフみんなで一ひとりに合わせた「穏やかで楽しい」を模索している所です。今年度も、お子さんに関わるいろいろな方々と連携をとりながらその子らしく生き生きと過ごす事ができる様に頑張ります。

サポートセンタースピリッツ

移動支援で外を歩いていると自然と言葉数が多くなります。その中でCMソングや童謡、ヒット曲を口ずさんだりすることがよくあります。

30代男性Sさんとは、こんなやりとりをして外を歩いています。みなさんはこのCM知っていますか？ヘルパー「トントントントント♪」、Sさん「日野トントント♪」（本当は日野の二トントント♪）。初めは「日野トントント♪」

と言っていたSさんですが、最近ではすっかり「日野の二トントント♪」と言えるようになってきました。私は「日野トントント♪」という言い間違いが愛らしく感じているので少し残念な気がしますが、Sさんの成長を感じます。ちよつとした瞬間でした。最近「スリーツワン、ハッスル、ハッスル。」と一緒にいうと笑顔になっていただけます。

街かど福祉相談室ると

平成28年度の始まりです。昭和に換算すると91年、書類等で生年月日を記入する欄がありますが、『平成』と記入することが多くなりました。児童の保護者は昭和生まれが多いですが、お子さんが幼少だと親御さんも平成という可能性がりますよね。小淵さんが『平成』という文字を掲げたのは一つの事だったでしょうか。介護福祉士、社会福祉士の制度が出来たのが昭和の終わり昭和63年ごろでした。思えば、平成になって

から制度や資格等が次々と整備され、福祉の世界も随分変わりました。常にアンテナを張っていないとどんどん取り残されてしまいますが、たとえ制度が変わるうとも、有資格者が増えようとも、人対人という基本は変わりません。小学校で習いました。人という文字はお互いが支え合って人という字になるのですよ、と。困った人がいると周りで助ける人がいる、そんな関係性をこれからも大切にしていきたいです。

ハンドワーク

平成27年度も終わり、平成28年度になります。ハンドワークでは就労継続支援B型と生活介護の多機能型で28年度のスタートをきります。生活介護は、人数がまだ集まっておらず、何がやりたいか？何を楽しみに生きがいにするか？何を大切にすることが？等々の思いや、声があがってきているようです。ゆっくり好きなことをして過

ごしたいNさんは、職員と一緒ににお出かけの予定に3月中から目をキラキラさせて楽しみにしているようで、とても嬉しそうにしています。

一方では、働きたいし、遊びにも行きたいAさんは、生活と環境のリズムの変化に上手くいか不安の声がチラホラとあがってきています：

ありさ

ありさはいつも笑いが絶えません。メンバーの中に面白いことを言う人がいるから、というのはそうなのですが、それだけではなく笑い上戸のKさんがいるから、とも言えます。

Kさんは普段自分の話をあまりりしないのですが、ドラマやお笑いの番組の話をしてしていると、よく知っていてそこから話が広がっていくことがよくあります。面白いものが大好きなんだなと伝わってきます。

先日、Hさんが話す「里見幸太郎に行ってきた。」というのが

実は「スタミナ太郎に行ってきた。」と言っていることが分かった話をしたところ、大笑い。しばらく笑いが止まりませんでした。Hさんは笑いのツボが沢山で、しょっちゅう笑いのツボにハマっては息もするのが大変なくらい笑ってしまいます。そんな笑いがみんなの笑いを誘発するという「エンドレスラフ」が生まれているのです。

五根の家

◆小規模多機能ホーム

五根の家は開設してもうすぐ5年を迎えようとしています。開設当初は利用されるお年寄りの人数も少なく、リビングでの話し声も疎らでした。今では人数も増えてリビングは大賑わいです。話し相手もスタッフだけでなく、お年寄り同士での会話もよく聞かれます。会話に耳を傾けると、「昔、私は小学校の先生をしていたのよ」「私もよ！」と共通の話題で盛り上

がっていました。五根の家の利用を通じて何十年ぶりに再会される方もいて、お互いにビックリされる事もあります。お年寄りの中には、お迎え時に「今日は誰が来るの？○○さんはいるか？」と質問され、お仲間と会えることを楽しみにされている方もいたり、体調を崩してお休みされる方がいると「大丈夫？」と心配される方もいます。困っているお年寄りに関わることも時に必要ですが、お年寄り同士で作られる場の雰囲気の大切さも改めて感じています。

先日は地域の方々のご協力を頂き、お年寄りと一緒に庭の手入れと花植えを行いました。これからお花が育っていくのが楽しみです。ご協力頂きました皆様、ありがとうございます。

◆グループホーム

Aさんは3月14日に95歳の誕生日を迎えられました。Aさんは2月初めに体調を崩して入院され、とても心配されましたが、

2歳になる可愛いひ孫ちゃんとの面会がとても良い薬となりお身体も日増しに回復され、1ヶ月程で無事に退院されました。退院の日は、五根の家の玄関で皆さんに出迎えられ、「退院おめでとう！お帰りなさい！」と声を掛け、Aさんが好きなお花を渡すとニコツと笑顔で応えて下さいました。娘さんから「母は、五根の家を自分にとっても一つの家だと思っていて、入院中は（五根に）帰りたい！帰りたい！と言っていました。だから帰ってくるとたちまち元気になるようです。」とお話がありました。スタッフにとっては何よりも嬉しい言葉です。退院の日の夕方には行きつけの魚屋さんから大好きなマグロの刺身を買って皆さんと退院祝いをしました。好きな物を召し上がりました。好きな物もついてきました。徐々に食欲と体力もついてきました。気候が暖かくなってきたので、お天気が良い日にお花見に出かけましょうとスタッフとお約束されました。

地域福祉情報・相談センターりんく

営業…午前10時～午後8時

場所…東金ショッピングセンター「サンピア」内1階

(ステージコート脇)

内容…福祉、介護、子育て、

ボランティア・市民活動

に関する情報提供、相談

★福祉・介護・子育て等に

関する情報の掲示・配布

をご希望の方は、本会ま

で相談ください。

詳しくは、総務・企画課まで

ご連絡ください。

(0475533630)



《新人職員の紹介》

4月1日に3人の職員が入社しました。

何かと至らないところあるかもしれませんが、何卒よろしくお願ひいたします。

●子ども支援センターぽけっと

・鴉嶺の家 配属

深澤 萌菜



沼沢 千春



●五根の家 配属

宇井 健



《賛助会員の募集》

私たちの活動を支えてくださる賛助会員を募集しています。

賛助会費は、一口3,000

円です。賛助会員の皆様には、毎月19日に情報誌をお届けします。また、当法人の各種イベントや企画のご案内もいたします。何卒よろしくお願ひいたします。

詳しくは、総務・企画課までご連絡ください。

(0475-53-3630)

スタッフ募集

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方、一緒に働きますか？

日数・時間・曜日・内容（介護・保育・支援・食事づくり・清掃など）・年齢等ご相談に乗ります。

興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475-53-3630)

ボランティア募集

趣味や特技、仕事を通じて身につけたスキル、体力等、自分らしさを生かしたボランティア活動をやってみませんか？

ボランティア活動を通じて得られる効果は無限大です。

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475-53-3630)

編集者のつぶやき

怒涛の2015年度が終わり、「ホッと」する間もなく、2016年度が始まりました。なんだか、今年度も2015年度を越える日々になりそうで、今からめまいがします。でも、止まると死んでしまう私は、とにかく走り続けるざる得ません。周辺の皆様には、さらに迷惑をかけてしまうかもしれませんが、懲りずにお付き合いください (jerry)

新年度を迎え早半月が経ちました。新規の事業が増えたことによってサービスが使い易くなるのではないかと思います。新しいスタッフも加わり、更に向上して行けるように頑張りますので今年度も宜しくお願ひ致します (W)



ちばしゃ通信 (Vol.18)

発行日：2016年4月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630